

平成28年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 2	項目名 (仮称)アーバンデザインセンターびわこ・くさつ運営費	主要な施策の 成果 ページ	13	担当 部署	総合政策部 草津未来研究所
予算 科目	会計 1	一般会計	総合 計画 体系	分野	情報・交流
	款 2	総務費		基本方針	多様な交流活動の展開
	項 1	総務管理費		施策	大学などを生かしたまちづくりの展開
	目 5	企画費		当初予算における区分	新規施策・拡大施策・重点施策・その他
事務事業	47	草津未来研究所運営費			↑該当するものを○で囲んでください

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は?実施に至った経緯は?) これまで草津未来研究所にて取り組んできた研究を生かし、産学公民による新たな展開として、関西初となるアーバンデザインセンターびわこ・くさつ(以下、「UDCBK」という。)を開設することで、今まで集える場がなかった人に対して、気軽に立ち寄り、草津の未来について自由に語り合う場の提供が求められていた。また、この中から出たアイデアを実現するために、大学が持つ「知」、企業が持つ「技術」などを積極的に活用することで、創造の場づくりが期待される。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか?) 草津の未来を良くしたいという志を持った民を対象とし、UDCBKが主催するセミナーや拠点を通じて出てきたアイデアを実現することができる事業を対象とする。
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか?) 産学公民連携のプラットフォームであるUDCBKで、大学が持つ「知」や企業が持つ「技術」などを活用し、大学や企業と連携しながら、市民主役の都市空間づくりを目的とする。
事業の内容 (取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか?) ・大学地域連携強化プラン懇話会 4回 ・アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 1回 ・(仮称)UDCBK運営ワークショップ 3回・延べ参加人数24人 ・アーバンデザインスクール 5回・延べ参加人数135人 ・未来創造セミナー 10回・延べ参加人数404人 ・草津市社会実験推進事業 3事業(滋賀大学・成安造形大学・京都橘大学)

■ 予算・決算状況

		当初予算の状況					決算の状況・実績				
内訳・詳細		【平成27年度2月補正予算 繰越明許予算】					【現年度予算】				
		報償費	996千円				委託料	1,599千円			
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源	
	予算・決算額	0			0	1,599				1,599	
	前年度比										
	◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)	アーバンデザインスクール等セミナーは当初予算どおり開催したが、講師謝礼が必要のない講師に依頼をすることが多く、また、手話通訳・要約筆記の実績が少なかったために決算額が低かった。また、平成29年度中にUDCBKを人通りの多い場所へ移転するため、平成28年度に他課から予算を流用して年度内に実施設計業務を実施するために、現年度予算を計上した。草津市社会実験推進事業について、当初は草津市と包括協定を締結している5大学を予定していたが、3大学での実績にとどまったため、事業費減となった。									
	◆平成27年度事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
		0				0	0				0

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	4	市民ニーズが高い	セミナーやワークショップなどの参加者からのアンケート等により高評価を得ており、独自性もあることから今後も拡大の必要性がある。
	3	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	4	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	法的な必要性があるわけではないが、草津市独自の都市空間デザインが可能であり、全国でもUDCは15箇所(UDCBKを含む。)しかないことから独創的である。
	1	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	2	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	4	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	3	市民の基本的な生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	2	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	平成28年10月15日に開設したばかりであり、費用対効果や有効性の検証の必要があるが、今後、法人化による運営の可能性を検討する。
	2	コスト削減の余地はない	
	3	受益者一人当たりのコストは適正である	
	3	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	UDCBKで開催するセミナーやワークショップ等はずぐに効果が現れるものだけではなく、中長期的視点に立ってデザインするので、今後の継続が必要である。
	3	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	4	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	3	当該年度の事業目的を達成できた	平成28年度は開設初年度であったが、利用者から概ね好評を得ることができた。
	4	受益者の評価が得られている	
	3	費用対効果大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。 3.およそ当てはまる。 2.あまり当てはまらない。 1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	子育て世代、学生、外国にルーツを持つ人など今まで草津の未来のまちづくりについて対話する機会がなかった方々が、サードプレイスとしてのUDCBKに集い、未来創造セミナーなどのイベントによって互いを知り合うことによって、UDCBKのワークショップでの提案をベースに南草津駅前のマンション同士の防災活動(マンション防災)の取組みが始まり、危機管理課が事務局を務めるぼうさい応援隊ネットワークや玉川まちづくり協議会、老上まちづくり協議会とのコラボレーションが生まれるなどの波及効果が認められる。					
事業に対する市民の意見、反応	UDCBKが実施するセミナーやイベントのアンケートでは、アンケート回答者の9割以上が満足と回答しており、高評価を得ている。セミナー等の感想では、「普段出会わない方々と出会い、いろいろな考え方を知ることができた」という声が多かった。これは、一方通行の講座方式ではなく、ワークショップ方式など対話を重視していること、リラックスして対話できるような雰囲気作り、会場脇にキッズスペースを設けるなどにより、今まで市が主催するセミナー等に参加をためらいがちな層を取り込むことに成功したためと考える。					
事業の今後の課題、将来展望	子育て世代、学生、外国にルーツを持つ人などを対象にしたセミナー等を企画したこともあり、市内通勤者や高齢者の参加が相対的に少ない傾向があった。今後は市内通勤者や高齢者に関心のあるテーマを取り上げていきたい。将来的には都市空間デザインを提案し、調査研究や社会実験を経て、実現することを目指している。実現化には事業主体となりうべき独立した運営組織が必要であり、UDCBKがその役割を担えるよう法人化の検討を進めていきたい。					
※平成29年度の予算措置	予算額(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
	28年度比 積算根拠	50,533	1,208	-		49,325
<ul style="list-style-type: none"> ・共済費 280千円(臨時職員共済費) ・賃金 1,700千円(臨時職員賃金) ・報償費 1,280千円(アーバンデザインスクール・未来創造セミナー等講師謝礼等) ・旅費 523千円(アーバンデザインスクール・未来創造セミナー等講師旅費等) ・需用費 217千円 ・役務費 557千円(通信運搬費等) ・委託料 1,231千円(社会実験推進事業委託料等) ・使用料及び賃借料 9,284千円(UDCBK新拠点テナント家賃等) ・工事請負費 32,288千円(UDCBK新拠点テナント改修工事費等) ・備品購入費 2,422千円(UDCBK新拠点備品) ・負担金補助及び交付金 751千円(環びわこ大学・地域コンソーシアム参加負担金等) 						

※ 当該事業が平成28年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。